

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	願望疑問文と失礼さ
Author(s)	井上, 優
Citation	広島大学日本語教育研究 , 33 : 32 - 41
Issue Date	2023-03-31
DOI	
Self DOI	10.15027/53753
URL	https://doi.org/10.15027/53753
Right	Copyright (c) 2023 広島大学大学院人間社会科学研究科日本語教育プログラム
Relation	



願望疑問文と失礼さ

井上 優

Desiderative Questions and Impoliteness

Masaru INOUE

キーワード：願望疑問文，要望，単なる願望，失礼さ，上から目線

1. 問題

日本語では、自分より上位の人物（以下「上位者」）に願望を尋ねることは失礼になると言われる¹⁾。また、その失礼さは通常、欲求・願望や感情・感覚といった聞き手の「私的領域」に属する事柄に踏み込むことの不適切さとして説明される。

- (1) 聞き手を主語にして願望を尋ねる次のような質問は、聞き手が目上の人やあまり親しくない人である場合は、失礼になります。

(19) #お客様はどんな靴がほしいですか。

(20) #先生は私たちのパーティーに参加したいですか。

日本語には、親しい間柄でなければ相手の心情に直接触れることが許されない，という待遇上のきまりがあるからです。

(松岡(監修)・庵ほか2000:142, 下線引用者)

- (2) 日本語における日常生活において、来客に「コーヒー召し上がりたいですか」と(略)尋ねることはない。(略)「コーヒーはいかがですか。」「コーヒーと紅茶とどちらがよろしいでしょうか。」のように聞き手の欲求・願望に直接言及しない形で尋ねるのが普通である。(略)このように、聞き手の欲求・願望や感情・感覚について直接質問したり、自己の判断を述べたりすることは、丁寧さという点からは不適切となることがある。

(鈴木1989:59-60, 下線引用者)

しかし、上位者に願望を尋ねることが常に失礼になるわけではない。熊井(1989)は次のように述べている。

- (3) 11 (見たい映画の話をしている場面で)
- あなたも「レインマン」見たい？
 - 先生も「レインマン」見たいですか？
 - 先生も「レインマン」ご覧になりたい

ですか？

11b, cは(略)(特にcは)かなり容認度が高いのではないと思われる(略)

(熊井1989:8-9)

島(2021)も、(4)(5)を含め、上位者に願望を尋ねてもそれほど失礼にならない例をあげている。「ほしい」を用いた(6)もそれほど失礼ではない。((3c)および(4)~(6)に失礼さがまったく感じられないわけではないが、失礼さの質が(1)(2)の例とは異なる。後述)

(4) もし100万円あったら、先生は何をお買いになりたいですか。(島2021:216)

(5) 社長は、将来、どのような製品をお作りになりたいですか。(同上)

(6) 先生は、お子さんに将来どのような職業についてほしいですか。

島(2021)はまた、聞き手が非上位者であっても願望を尋ねることが失礼に感じられる場合があることも指摘している。

(7) 姉：暑い～。

妹：うん、暑いね～。……あ、そうそう。(冷蔵庫からアイスクリームを出して目の前に差し出して)ほら、アイスクリーム。食べる？/#食べたい？

(島2021:219-220, 体裁変更)

(「#」は当該発話の使用が不自然・不適切であることを表す。先行研究で別の記号が用いられている場合も「#」に統一する。)

熊井(1989:5-6)も、相手をパーティーに誘う場面で「いっしょにパーティーに行きたい？」と尋ねるのは、相手が親しい友人であっても不適切としている。

日本語で願望疑問文が失礼になる場合とそれほど失礼にならない場合があるのはなぜか。本論では、熊井(1989)、島(2021)の議論を紹介しながら、この問題に

ついて考察する。議論の中で、願望を尋ねる側を「質問者」、願望を尋ねられる側（質問に回答する側）を「回答者」と呼ぶことがある。

2. 島(2021)の議論

島(2021)は、先行研究の「願望疑問文の失礼さ＝聞き手の私的領域に属する事柄に踏み込むことの不適切さ」という見方を踏襲しつつ、願望疑問文が失礼になる・ならないということについて、言及対象となる願望の「現場性」という観点から、次の3つのケースに整理している。

【ケース1】眼前に存在する特定のもの（島2021では「現実の、今、この場にある眼前の特定の現物」）に対する願望は現場性が強く、上位者（例8）・非上位者（例9）に関係なく、聞き手に願望を尋ねることは失礼である。この場合、聞き手の意志を尋ねる疑問文を用いる必要がある。

(8) (ビュッフェ形式の懇親会でコップについだビールを差し出して)

社員：部長，ビール，召し上がりますか／
#召し上がりたいですか。

(島2021:218, 体裁変更)

(9) (=7)

姉：暑い～。

妹：うん，暑いね～。……あ，そうそう。(冷蔵庫からアイスクリームを出して目の前に差し出して) ほら，アイスクリーム。食べる？／#食べたい？

【ケース2】発話現場に存在しないもの（例10, 11）や特定されないもの（例12, 13）に対する願望はやや現場性が弱く、上位者に願望を尋ねることは失礼だが（例10, 12）、非上位者に願望を尋ねることは失礼ではない（例11, 13）。上位者に対しては、意志を尋ねる疑問文を用いる必要がある。

(10) (ビュッフェ形式の懇親会で)

社員：部長，ビール，召し上がりますか／
#召し上がりたいですか。ぼく，取ってきます。

(島2021:221, 体裁変更)

(11) 姉：暑い～。

妹：うん，暑いね～。……あ，そうそう。
冷蔵庫にアイスクリームあるよ。食べる？／#食べたい？

(島2021:216, 体裁変更)

(12) (夜，退社時に)

社員：すっかり遅くなりましたね。課長，
ご一緒にお食事でもいかがですか。

課長：うん，そうだな。行こうか。

社員：何を召し上がりますか／#何を召し上がりたいですか。

(島2021:223, 体裁変更)

(13) (夫婦で外出中)

夫：さあ，買い物も済んだし，レストラン
行って食事にしようか。

妻：うん，そうだね。おなかすいた。

夫：何食べる？／何食べたい？

(島2021:223-224, 体裁変更)

【ケース3】想像上の話（例14）や遠い未来の話（例15）の中での願望は現場性が弱く、非上位者に願望を尋ねることが失礼にならないのはもちろん、上位者に願望を尋ねることもそれほど失礼にならない。

(14) (会議で)

社員：これが新しい店舗のデザイン案です。
もし部長が客としてこの店の前にいるとしたら，AとBのどちらにお入りになりますか／お入りになりたいですか。

(島2021:226, 体裁変更)

(15) インタビュアー：御社はこれまでハイテク家電製品から日常生活に役立つグッズまで様々なものを開発されていますね。

社長：うん，そうだね。

インタビュアー：素晴らしいですね。将来は，どのような製品をお作りになりますか／お作りになりたいですか。

(島2021:229-230, 体裁変更)

以上の島(2021)の観察は、次の見方に支えられていると見られる。

- ・場面による願望疑問文の失礼さの違いとは「失礼さの程度」の違いである。

- ・願望疑問文の失礼さの程度は、聞き手の私的領域に属する事柄に踏み込む程度に比例し、聞き手の私的領域に属する事柄に踏み込む程度は、願望の現場性の程度に比例する。

これに対し、本論では次のような見方をとる。

- ・ケース1とケース2における願望疑問文の失礼さ（および、ケース3の疑問文に若干感じられる失礼さ）は質的に異なるものである。

- ・その失礼さの質の違いを説明するには、「願望疑問文の失礼さ＝聞き手の私的領域に属する事柄に踏み込むことの不適切さ」とは別の見方が必要である。

以下では、このことを次の順序で述べていく。

- ①ケース 1（上位者・非上位者ともに願望を尋ねることが失礼）で願望疑問文が失礼なのはなぜか。（第3節）
- ②ケース 2（上位者に願望を尋ねることが失礼）とケース 3（上位者に願望を尋ねることがそれほど失礼にならない）は何が異なるのか。（第4節）
- ③上位者に願望を尋ねることがケース 2 で失礼になり、ケース 3 でそれほど失礼にならないのはなぜか。（第5節）
- ④日本語に上位者に願望を尋ねることが失礼になる現象が見られるのはなぜか。（第6節）

3. ケース 1 における願望疑問文の失礼さ

まず、ケース 1 における願望疑問文の失礼さについて述べる。

島(2021)は、ケース 1 を願望の対象が眼前にモノとして存在する場合とするが、この一般化は修正の余地がある。実際、次の(16)(17)では、願望の対象がモノとして眼前に存在するわけではないが、先の(8)(9)と同様、聞き手が非上位者であっても願望を尋ねることは失礼である。

(16) 姉：暑い～。

妹：うん、暑いね～。……あ、そうそう。
冷蔵庫にアイスクリームあるよ。今日
みたいな日はアイスクリームおいしい
よね。食べる？/#食べたい？

(17) これから食事に行くんだけど、あなたも来る？/#来たい？

前述の、相手をパーティーに誘う場面で「いっしょにパーティーに行きたい？」と尋ねる例(熊井 1989:5)も、(17)と同種の例である。

(8)(9)および(16)(17)では、質問者は回答者の願望を刺激するモノやコトを提示して、回答者を特定の行動に誘おうとしている。ケース 1 における願望の対象は、眼前に存在するモノに限らず、より広く「聞き手の願望を刺激する物事」と考えるのが妥当であり、ケース 1 における願望疑問文の失礼さも「回答者の願望を刺激しておきながら願望の有無を尋ねる」という「意地

の悪さ」にあると考えるのが自然である²⁾。

島(2021)は次の(18)の「来たい？」に「じらしているような悪意」を感じるとするが、それはまさに「回答者の願望を刺激しておきながら願望の有無を尋ねる」ということから生ずるものである³⁾。

(18) 姉：聞いて！ ARASHIN のラストコンサートのチケット、手に入ったんだ！

妹：えー！ うそー！ すごーい！ コンサート行けるんだ……うわあ、いいないいなー……。

姉：ほら、チケット 2 枚あるんだけど、どう？ いっしょに来る？/#来たい？

(島 2021:240, 体裁変更)

次の(19)ではチケットは眼前にないが、(18)と同じ意地の悪さを感じられる。ケース 1 で願望疑問文の失礼さに直接関係するのは、当該のモノやコトによってその場で回答者の願望が刺激されることであり、島(2021)が「願望の現場性が強い」と言うのもそのことを指していると思われる。

(19) 姉：聞いて！ ARASHIN のラストコンサートのチケット、手に入ったんだ！

妹：えー！ うそー！ すごーい！ コンサート行けるんだ……うわあ、いいないいなー……。

姉：いいでしょう！ いっしょに来る？/#来たい？

以上述べたケース 1 の願望疑問文の失礼さを、ケース 2 で上位者に願望を尋ねた場合の失礼さと比較しよう。

(20) (=10)

(ビュッフェ形式の懇親会で)

社員：部長、ビール、召し上がりますか/
#召し上がりたいですか。ぼく、取ってきます。

(21) (=12)

(夜、退社時に)

社員：すっかり遅くなりましたね。課長、ご一緒にお食事でもいかがですか。

課長：うん、そうだな。行こうか。

社員：何を召し上がりますか/#何を召し上がりたいですか。

(20)(21)において願望疑問文は失礼だが、「回答者の願望を刺激しておきながら願望の有無を尋ねる」という「意地の悪さ」は感じられない。つまり、ケース 1 とケース 2 では願望疑問文の失礼さの質が異なる。そ

のことをふまえ、第4節と第5節ではケース2における失礼さの具体的な内容について考察する。

4. ケース2とケース3の違い

本節では、上位者に願望を尋ねることが失礼になるケース2と上位者に願望を尋ねることがそれほど失礼にならないケース3の違いについて述べる。

この点については、熊井(1989)に本質を捉えた指摘がある。(22)と(23)はそれぞれ本論で言うケース2、ケース3について述べたものである。

(22) 10 (相手に本を貸すことを申し出る場面)

- a. この本読みたい？
- b. 先生、この本読みたいです？
- c. 先生、この本お読みになりたいですか？

(略) この場合の相手の利益は、「本を貸す」という話し手の負担によっている。そのため、上位に待遇すべき相手に対して「ほしい・たい」を用いると、〈あなたが望むなら、私は私の負担においてあなたに利益・恩恵を与えてあげることもできますよ〉というように、話し手が相手に利益を与えることを強調した、著しく丁寧さを欠く発話となる。

日本語では、目上の人に対して「～てあげる・～てさしあげる」のような恩恵の授与を表面に出した表現を用いることは失礼とされるが、10b、10cの不適切さはまさにこれに対する違反のためであり、「お読みになる」などの敬語形式を使ってもその不適格性は少しも変わらない。

(熊井 1989:7)

(23) 11 (見たい映画の話をしている場面で)

- a. あなたも「レインマン」見たい？
- b. 先生も「レインマン」見たいですか？
- c. 先生も「レインマン」ご覧になりたいですか？

11b、cは(略)4から10のb、c[注：上位者に願望を尋ねるのが失礼な例]に比べれば(特にcは)かなり容認度が高いのではないかと思われるが、これはなぜだろうか。

4から10までと11の違いは、前者が話し手と相手の両方の利害に関係のある状況

での発話であるのに対し、単に見たい映画の話をしているという場面では11の「レインマン」を「見る」という相手の行為は話し手とは直接関係ない、話し手の利益とも無関係な行為であるという点である。

このように、話し手とかかわりのない相手の行為について相手の希望を尋ねる場合には、やや丁寧さには欠けるが、「ほしい・たい」を用いてもさほど失礼ではないようである。殊に、

11c. 先生も「レインマン」をご覧になりたいとお思いになりますか？

のように、「思う」をつけて、差し迫った願望ではなく意見を聞くような表現にした場合には、一層その容認度は高くなる。

(熊井 1989:8-9)

(22)と(23)で述べられていることは、簡単に言えば、次のようなことである。

ケース2：どうするかを決める場面で、回答者に「質問者への要望」を尋ねるケース。(「と思う」を補えない。)

ケース3：どうするかを決めるわけではない場面で、回答者に質問者への要望の気持ちを含まない「単なる願望」を尋ねるケース。(「と思う」を補える。)

まず、回答者が非上位者の場合について見る。(24)(25)はケース2、(26)～(28)はケース3の例である。

(24) (=11)

姉：暑い～。

妹：うん、暑いね～。……あ、そうそう。冷蔵庫にアイスクリームあるよ。食べたい(＃と思う)？

(25) (=13)

(夫婦で外出中)

夫：さあ、買い物も済んだし、レストラン行って食事にしようか。

妻：うん、そうだね。おなかすいた。

夫：何食べたい(＃と思う)？

(26) (親が子どもに)

もしチャンスがあったら、外国に留学したい(と思う)？

(27) (親が子どもに)

将来どんな職業につきたい(と思う)？

(28) (友人同士で)

子どもに将来どんな職業についてほしい

(と思う) ?

ケース2である(24)(25)は、「アイスクリームを取りに行くか否か」「何を食べに行くか」を決める場面である。そして、それに連動して、「食べたい?」「何食べたい?」という願望疑問文は、「アイスクリームを取りに行ってもいいか」「どのような店を選んでほしいか」という質問者への要望を尋ねる質問となる。

これに対し、ケース3である(26)~(28)は、どうするかを決める場面というわけではない。願望疑問文も、回答者の思いや考えを尋ねているだけで、質問者への要望を尋ねているわけではない。「と思う」を補えるのも、思いや考えとしての願望を尋ねるだけの質問だからである。

「質問者への要望」と「単なる願望」の区別をふまえて回答者が上位者の場合を見ると、ケース2で上位者に願望を尋ねることが失礼になるのは、正確には「上位者に質問者への要望を尋ねることは失礼になる」ということであることがわかる。

(29) (=10)

(ビュッフェ形式の懇親会で)

社員: #部長, ビール, 召し上がりたいですか。ぼく, 取ってきます。

(30) (=12)

(夜, 退社時に)

社員: すっかり遅くなりましたね。課長, 一緒にお食事でもいかがですか。

課長: うん, そうだな。行こうか。

社員: #何を召し上がりたいですか。

ケース3で上位者に願望を尋ねることがそれほど失礼にならないというのも、正確には「上位者に『単なる願望』を尋ねることはそれほど失礼にならない」ということである。

(31) (=14)

(会議で)

社員: これが新しい店舗のデザイン案です。もし部長が客としてこの店の前にいるとしたら, AとBのどちらにお入りになりたいですか(入りたいと思われませんか)。

(32) (=15)

インタビュアー: 御社はこれまでハイテク家電製品から日常生活に役立つグッズまで様々なものを開発されていますね。

社長: うん, そうだね。

インタビュアー: 素晴らしいですね。将来は, どのような製品をお作りになりたいですか(作りたいと思われませんか)。

(33) (=6)

先生は, お子さんに将来どのような職業についてほしいですか(ついてほしいと思われませんか)。

(1)(2)の説明で失礼とされる「お客様はどんな靴がほしいですか」「先生は私たちのパーティーに参加したいですか」「コーヒー召し上がりたいですか」も、「どんな靴を客に勧めるか」「パーティーに参加させるか否か」「コーヒーを出すか否か」を決める場面で, 上位者に質問者への要望を尋ねる質問である⁴⁾。島(2021)が「願望の現場性がやや強い」(ケース2)、「願望の現場性が弱い」(ケース3)という形で捉えているのも, 実質的には「質問者への要望」(ケース2)、「単なる願望」(ケース3)ということだと見られる。

5. 願望疑問文がケース2で失礼になり、ケース3でそれほど失礼にならない理由

前節での議論をふまえ, 次に, ケース2(どうするかを決める場面)で上位者に質問者への要望を尋ねることが失礼になる理由, ならびに, ケース3(どうするかを決めるわけではない場面)で上位者に「単なる願望」を尋ねることがそれほど失礼にならない理由について考える。

ケース2のうち, 回答者が非上位者である(34)(35)では, 「食べる?」「何食べる?」と回答者の意志を尋ねることも, 「食べたい?」「何食べたい?」と回答者の要望を尋ねることもできるが, 質問者が回答者に対しておこなうことは同じではない。

(34) (=11)

姉: 暑い~。

妹: うん, 暑いね~。.....あ, そうそう。冷蔵庫にアイスクリームあるよ。食べる?/食べたい?

(35) (=13)

(夫婦で外出中)

夫: さあ, 買い物も済んだし, レストラン行って食事にしようか。

妻: うん, そうだね。おなかすいた。

夫: 何食べる?/何食べたい?

どうするかを決める場面における「食べる?」「何食べる?」は、回答者にどうするか(食べるか否か、何を食べるか)の決定を委ねる「決定要請」の質問である。どうするかを決める権利は回答者にあり、質問者は回答者の決定に従う形で次の行動を起こす。どうするかを決めることについて、質問者と回答者は「質問者:従、回答者:主」という関係にある。

これに対し、どうするかを決める場面における「食べたい?」「何食べたい?」は、回答者のために質問者がどうするか(アイスクリームを取りに行くか否か、何を食べに行くか)を決めるために、回答者に質問者への要望を尋ねる「要望聴取」の質問である。質問者が回答者に求めているのは要望を述べることまでであり、どうするかを最終的に決めるのは質問者である⁷⁾。どうするかを決めることについて、質問者と回答者は「質問者:主、回答者:従」という関係にあり、そこから「要望があれば実現してあげる」という「上から目線」のニュアンスが生ずる⁸⁾。

どうするかを決める場面における質問者と回答者の関係は、回答者が上位者で質問者が下位者である(36)(37)の場合も同じである。

(36) (=10)

(ビュッフェ形式の懇親会で)

社員: 部長, ビール, 召し上がりますか/
#召し上がりたいですか。ぼく, 取っ
てきます。

(37) (=12)

(夜, 退社時に)

社員: すっかり遅くなりましたね。課長,
ご一緒にお食事でもいかがですか。

課長: うん, そうだな。行こうか。

社員: 何を召し上がりますか/#何を召し上
がりたいですか。

「召し上がりますか」「何を召し上がりますか」と尋ねる場合、下位者である質問者は上位者である回答者にどうするか(飲むか否か、何を食べるか)の決定を委ねている。それは「下位者である質問者は上位者の決定に従う」ことを示し、「質問者(下位者):従、回答者(上位者):主」という形で回答者を立てることにつながる。

一方、「召し上がりたいですか」「何を召し上がりたいですか」の場合は、下位者である質問者が回答者のためにどうするか(ビールを取りに行くか否か、何を食べに行くか)を決めるために、上位者である回答者に要望を尋ねている。質問者が回答者に求めている

のは要望を述べることまでであり、どうするかを最終的に決定するのは質問者である。どうするかを決める場面で上位者に質問者への要望を尋ねるのが失礼なのも、要望以上のことを尋ねないことが「どうするかを決める権利は下位者である質問者にあり、上位者である回答者には要望を述べる権利しかない」こと、言い換えれば、質問者と回答者が「質問者(下位者):主、回答者(上位者):従」という関係にあることを意味し、そこに「要望があれば実現してあげる」という「上から目線」の態度が感じられるからである⁷⁾。

これは、上位者の要望に対して、許容を表す「いいですよ↑」(↑:上昇調)で答えることの失礼さと同じものである。

(38) 上司: これ, コピーしてきてほしいんだけど。

部下: a. #いいですよ↑。

b. わかりました。

(38)の「いいですよ↑」は「上から目線」のニュアンスを伴う。それは、上位者の要望を許容することが「どうするかを決める権利は下位者である自分にあり、上位者である聞き手には要望を述べる権利しかない」ことを意味し、そこに「上位者の要望を実現させてあげる」という態度が感じられるからである。上位者に対して恩恵授与の表現「～てあげる」「～てさしあげる」を用いた場合に感じられるのも、「上位者の要望を許容する」という「上から目線」のニュアンスである(井上2018)。熊井(1989)は「上位に待遇すべき相手に対して『ほしい・たい』を用いると、〈あなたが望むなら、私は私の負担においてあなたに利益・恩恵を与えてあげることもできますよ〉というように、話し手が相手に利益を与えることを強調した、著しく丁寧さを欠く発話となる」(=(22))と述べているが、これも、「上位者の要望を許容する」、「上位者に質問者への要望を尋ねる」、「上位者に対して恩恵授与の表現を用いる」の3つが同じ「上から目線」のニュアンスを伴うということである。

上位者・非上位者に関係なく聞き手に願望を尋ねることが不適切なケース1も、どうするかを決める場面で回答者に質問者への要望を尋ねるケースであり、ケース2で上位者に要望を尋ねる場合と同じ「上から目線」のニュアンスが感じられる。ケース1で上位者に要望を尋ねるのは、「上から目線」と「意地の悪さ」という二重の意味で不適切と言える⁸⁾。

このように考えると、どうするかを決めるわけではない場面で上位者に「単なる願望」を尋ねること(ケ

ース 3) が失礼にならない理由も説明できる。「単なる願望」を尋ねる質問は、回答者の思いや考えを尋ねるだけで、質問者への要望を尋ねるわけではないため、どうするかを決める権利が問題にならず、それゆえ、「どうするかを決める権利は下位者である質問者であり、上位者である回答者には要望する権利しかない」、「要望があれば実現してあげる」という「上から目線」のニュアンスも生じない。上位者に「単なる願望」を尋ねても失礼にならないのはそのためである。

以上の説明は、先行研究の「聞き手の私的領域に属する事柄に踏み込むことの不適切さ」という観点からの説明とは異なる。しかし、これは「願望に直接言及する＝聞き手の私的領域に属する事柄に踏み込む」という見方を否定するものではない。実際、前述のように、上位者に願望を尋ねることがそれほど失礼にならないケース 3 (例 31, 32, 33) でも、まったく失礼さが感じられないわけではなく、多少「なれなれしい」という印象は受ける。これは、願望に直接言及することが聞き手の私的領域に踏み込むことになるからであろう。島(2021)が意図したのも、願望の現場性の強さに比例して願望に直接言及する「なれなれしさ」も増すという説明なのかもしれない。しかし、すでに述べたように、ケース 1 とケース 2 の願望疑問文に感じられる失礼さとは「意地の悪さ」「上から目線」というものであり、聞き手の私的領域に踏み込むことによる「なれなれしさ」は、願望疑問文の失礼さにはそれほど影響しないと見られる。

6. 日本語と中国語の願望疑問文

ここまでの議論をふまえ、最後に、日本語に上位者に質問者への要望を尋ねることが失礼になる現象が見られる理由について、中国語との比較で考える⁹⁾。

中国語では、(39)のように「回答者の願望を刺激しながら願望の有無を尋ねる」場合は、日本語と同じく「意地の悪さ」が感じられるが、(40)のように、回答者に質問者への要望を尋ねるだけの場合は、相手が上位者であっても特に失礼にならない。(中国語例文の逐語訳は省略し、直訳を付す。)

(39) (=7)

姉：暑い～。

妹：うん、暑いね～。……あ、そうそう。

(冷蔵庫からアイスクリームを出して目の前に差し出して)

ほら、アイスクリーム。

食べる？/#食べたい？

你吃不吃？/#你想不想吃？

[直訳：あなた、食べる？/あなた、食べたい？]

(40) (先生が元学生とレストランで食事をしている。元学生が先生に)

a. 先生、白酒 [バイジウ：中国の焼酎] をお飲みになりますか？ この白酒はおいしいですよ。

老师，您喝白酒吗？这里的白酒挺不错的。[直訳：先生，あなたは白酒を飲みますか？ この白酒はなかなかおいしいですよ。]

b. # 先生、白酒をお飲みになりたいですか？ この白酒はおいしいですよ。

老师，您想喝白酒吗？这里的白酒挺不错的。[直訳：先生，あなたは白酒を飲みたいですか？ この白酒はなかなかおいしいですよ。]

この点について考える際にヒントになるのは、次の(41)の現象である。

(41) A：すみません、ちょっとお聞きしたいんですが/#お聞きしたいです。

对不起，我想向您打听一下。

[直訳：すみません、ちょっとお聞きしたいです。]

B：はい、なんでしょう。

您想问什么？¹⁰⁾

[直訳：何をお尋ねになりたいですか？]

(グループ・ジャマシイ 1998 (徐一平ほか訳 2001)：240, 一部改変)

(41)は、AがBに「質問させてください」という依頼をおこなう場面である。この場合、中国語では、“我想向您打听一下”(ちょっとお聞きしたいです)のように聞き手への要望を述べれば、それで「質問させてください」という依頼の気持ちが暗示される。しかし、日本語では、「ちょっとお聞きしたいです」のように聞き手への要望を述べるだけでは「質問させてください」という依頼の気持ちは暗示されず、聞き手に一方的に要望を述べるだけの自己中心的な発話になる。「質問させてください」という依頼の気持ちを暗示するには、「ちょっとお聞きしたいんですが(いいですか？(可能なら質問させてください))」のように、依頼の気持ちを暗示する表現を用いる必要がある(井上 2022)。

中国語では、依頼の場面で要望を述べれば依頼の気

持ちが暗示される。それゆえ、(40)のようにどうするか(白酒を注文するか否か)を決める場面で、願望疑問文で回答者に要望を述べさせることは、回答者の要望を回答者の依頼、すなわち「どうするか決定」として受け取れることを示すことになる。

一方、日本語では、依頼の場面で要望を述べるだけでは依頼の気持ちが暗示されない。それゆえ、(40b)のように願望疑問文で要望を尋ねた場合は、回答者に要望以上のことを述べさせないことになり、前節で述べた「上から目線」のニュアンスが生ずる。回答者の回答を「どうするか決定」として受け取れることを示すには、(40a)のように回答者の意志を尋ねる必要がある。日本語と中国語は要望を述べることの意味合いが異なるので、要望を尋ねることの意味合いも違って来るのである。

7. まとめ

本論では、島(2021)の観察および熊井(1989)の議論をふまえて、日本語の願望疑問文に感じられる失礼さについて考察した。島(2021)の見方と対比させる形で、日本語の願望疑問文の失礼さを整理すれば次のようになる。

(42)

		願望の性質	願望疑問文の失礼さ
ケース1	島(2021)	願望の現場性が強い	上位者・下位者ともに失礼
	本論	願望=質問者により刺激される願望	意地の悪さ+上から目線
ケース2	島(2021)	願望の現場性がやや強い	上位者に対して失礼
	本論	願望=質問者への要望	上から目線
ケース3	島(2021)	願望の現場性が弱い	上位者に対してそれほど失礼ではない
	本論	願望=単なる願望	多少のなれなれしさ

本論の議論は、島(2021)の観察と熊井(1989)の説明を結びつけ、それに、ケース1で願望疑問文が失礼になる理由、および、日本語において回答者に質問者への要望を尋ねることに「上から目線」のニュアンスが感じられる理由に関する考察を加えて整理したものである。「私的領域」に基づく失礼さに関する議論は、

失礼さの内容の整理が必ずしも十分でないところがある。本論では、「私的領域」という見方をいったん横に置き、まずそれぞれのケースの失礼さの内容を具体的に捉え、その上でそれぞれの失礼さの背景にあるしぐみを考えるという手順を取った。少なくとも願望疑問文の失礼さには「私的領域」ということは深く関与していないというのが、本論の結論である。

注

1) 本論で「願望を尋ねる」と言う場合は、「～たい」「ほしい」「～てほしい」を用いて願望を尋ねる場合を指す。動詞「希望する」を用いて上位者に希望を尋ねることは失礼にはならない。

・(患者に対する質問票で)

a. 胃部X線検査の受診を希望されますか。

b. #胃部X線検査を受診されたいですか。

(「#」は当該発話の使用が不自然・不適切であることを表す。)

2) 熊井(1989)は、相手をパーティーに誘う場面での「いっしょにパーティーに行きたい？」の失礼さについて、次のように説明している。

・「誘う」・「招待する」という行為には、相手に利益・恩恵を与える以上に、話し手自身がそれによって利益・恩恵を受けるという意味が含まれているのではないかと考える。

(略)「たい」を用いて直接相手の希望を聞くと、相手の「行く」という行為によって話し手自身が利益・恩恵を受けるという意味はなくなる。そして、(略)話し手が選択権をもち、相手に利益・恩恵を与えることを強調した、話し手優位の表現になってしまう。

(熊井 1989:6)

この説明の後半部分は、「たい」を用いて相手の願望(正確には要望)を尋ねると「上から目線」のニュアンスが生ずるという説明であり、これは後述するケース2の失礼さと共通するものである。第5節でも述べるが、ケース1はこの「上から目線」のニュアンスに加えて「意地の悪さ」が感じられる(それゆえ非上位者に対しても失礼になる)ケースであり、本論では、例(17)や「いっしょにパーティーに行きたい？」にもそれがあてはまると見る。これに対し、熊井(1989)の上の説明は、「話し手自身が利益・恩恵を受ける」ことを表す表現を使うべき場面で「相手に利益・恩恵を与える」ことを表す表現を用いると、「上から目線」のニュアンスが非上位者

に対しても失礼になるくらいに増幅されるという説明だと考えられる。ケース1に対する説明はケース1にどのような失礼さを感じるかによって違ってくると思われる。

- 3) 熊井(1989:6)は、「人を誘う場面ではなく、例えばパーティーの券を2枚持っている姉が、妹に恩着せがましくちょっと威張って言う」場合は「いっしょにパーティーに行きたい?」は適格であると述べているが、これはあくまで「行きたかったら行かせてあげる」という気持ちで「いっしょにパーティーに行きたい?」と言う場合は、気持ちと文の意味が一致するという意味である。それとは別に、パーティーの券を2枚持って「いっしょにパーティーに行きたい?」と言うと、「回答者の願望を刺激しておきながら願望の有無を尋ねる」という「意地の悪さ」が感じられるというのが、島(2021)および本論の見方である。

- 4) グループ・ジャマシイ(1998)の次の説明における「欲求」は、ここで言う「質問者への要望」を指すものと見られる。

・丁寧さが必要とされる場面では「なにか飲みたいですか」のような直接的な欲求表現を避けて、「なにか飲みますか」「飲物はいかがですか」などの言い方をするのが普通。

(グループ・ジャマシイ 1998:180, 下線引用者)

・(2) [注: 誕生日のプレゼントは何が欲しい]のように相手の欲求を直接たずねることは親しい間柄に限られる。丁寧さが必要な場面では「砂糖がほしいですか。」のような言い方は避けて「砂糖はいかがですか。」のように「ほしい」を使わないほうがよい。

(同: 526, 下線引用者)

- 5) 注2で引用した熊井(1989)の説明にある「話し手が選択権をもち」という部分もこのことを指す。
- 6) この「上から目線」のニュアンスのため、ケース2の願望疑問文は、回答者が非上位者であっても失礼さを感じられると言われることがある。次のコメントの「いささか失礼な印象」も、「上から目線で恩着せがましい」という印象を受けるということである。

・鈴木(1989)は、丁寧さのルールに従わなければならないのは、丁寧さに配慮しなければならない相手だけであり、普通体で話すような親しい関係ならば、「たい」を用いた疑問文

でも失礼ではないとする。

○みっちゃん、コーヒー飲みたい? 入れたげようか。

(略) 筆者の内省では、鈴木が親しい相手なら普通体で問題とならないとして挙げた上記の例文も、いささか失礼な印象を受ける。丁寧体を使う相手のみではなく、普通体を使うような親しい相手であっても《聞き手の私的領域》に踏み込んではいけないことになりはしない気がするからである。

○みっちゃん、コーヒー飲む? / コーヒーでも入れようか / コーヒー入ったよなどの発話が普通体世界においても望ましいのではないだろうか。

(高沢 2004:64)

- 7) (36)(37)の場面では、「召し上がりますか」「何を召し上がりますか」という質問に対して、上位者が「ちょっと飲みたいね」「あっさりしたものが食べたいね」のように願望を述べる形で回答することはありうる。この場合、回答者はどうするかを決定を委ねられている(「主」の立場を与えられている)が、自らの意志で決定権を行使せず、自身を「従」の立場に置いて回答している。願望疑問文で質問者への要望を尋ねることは、回答者を「従」の立場に置く姿勢を示すことになるが、回答者が自身を「主」の立場に置くか「従」の立場に置くかは、回答者の意志で選択できるということである。

- 8) 注2で紹介した、相手をパーティーに誘う場面「いっしょにパーティーに行きたい?」と尋ねた場合の失礼さに関する熊井(1989)の説明は、ケース1における「上から目線」のニュアンスに焦点をあてて説明したものと言える。

- 9) 白川(監修)・庵ほか(2001)では、願望疑問文の言語差について次のことが書かれている。

英語、中国語、ドイツ語、フランス語などを母語とする学習者は上級段階になっても願望疑問文の使用をコントロールすることが困難です。これらの学習者の母語では願望疑問文は失礼ではなく、「聞き手の意向を聞いてあげるのだからむしろ親切なことだ」と考えられているためです。

(白川(監修)・庵ほか 2001:241)

この説明では、英語と中国語の願望疑問文が類似の性質を持つように書かれているが、実際は中国語の願望疑問文は英語よりも日本語の願望疑問文に

近い。実際、英語の願望疑問文には、以下のように、質問者が望む事柄を回答者が前向きに受け止めてくれるかどうかを尋ねる用法があるが（大石 1996:15-16）、日本語と中国語の願望疑問文にはそのような用法はない。日本語でも中国語でも、以下の例で願望疑問文を用いると、質問者が望む事柄を回答者が望む事柄として尋ねることになり、不適切である。

- ・（「マーガリンを取ってくれる？」という気持ちで）

a. Do you want to pass me the margarine?
（大石 1996:15）

b. #私にマーガリンを渡したい？

c. #你想把黄油递给我吗？

[直訳：あなたは私にバターを渡したいですか？]

- ・（「隣に座ってもいい？」という気持ちで）

a. Do you want me to sit there?
（大石 1996:15）

b. #私に隣に座ってほしい？

c. #我希望我坐在你旁边吗？

[直訳：あなたは私が隣に座ることを望みますか？]

この点を含め、願望疑問文に関する言語差の整理は今後の課題とする。

- 10) (41)のBの発話で、日本語で「何をお尋ねになりたいですか？」と言うと、「何を教えてほしいか」という自分への要望を尋ねる質問となり、「要望を言ってくれれば答えてあげる」という「上から目線」のニュアンスが感じられる。中国語の“您想问什么？”（何をお尋ねになりたいですか？）は、Aが要望を述べたことを受けて要望の具体的な内容を尋ねるだけであり、「上から目線」のニュアンスはない。

付記

本論は次の口頭発表の内容を発展させたものである。

「願望疑問文と意志疑問文の日中対照」（「日本語文法研究のフロンティア—母語話者の日本語と学習者の日本語の対照研究を中心に—」, 2022年2月26日, 国立国語研究所（オンライン開催））

参考文献

井上優(2018)「文法とコミュニケーション—スル表現・

ナル表現, てあげる—」『國學院雑誌』119-11, pp.69-80

井上優(2022)「三層モデルから見た日本語と中国語の文形式の選択」『比較・対照言語研究の新たな展開—三層モデルによる広がりや深まり—』, pp.118-139, 開拓社

大石久実子(1996)「～(し)たいですか？」に代表される願望伺いについて—オーストラリア英語母語話者の接触場面での問題—」『日本語教育』91, pp.13-30

熊井浩子(1989)「待遇表現指導の一視点—「ほしい・たい」を中心に—」『日本語学校論集』16, pp.2-14, 東京外国語大学外国語学部附属日本語学校
グループ・ジャマシイ(1998)『日本語文型辞典』くろしお出版（徐一平ほか訳 2001『日本語句型辞典』くろしお出版）

島千尋(2021)「日本語の「～たい」を用いた願望疑問文の使用条件に関する一考察」『人間文化研究』14, pp.211-243, 桃山学院大学総合研究所

白川博之(監修)・庵功雄・中西久実子・高梨信乃・山田敏弘(2001)『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク

鈴木睦(1989)「聞き手の私的領域と丁寧表現—日本語の丁寧さは如何にして成り立つか—」『日本語学』8-2, pp.45-76, 明治書院

高沢美和(2004)「初級からの待遇表現教育」『国文研究』49, pp.53-70, 熊本県立大学日本語日文学会

松岡弘(監修)・庵功雄・中西久実子・高梨信乃・山田敏弘(2000)『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク